

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271400172		
法人名	社会福祉法人 あおぞら福祉会		
事業所名	老人グループホーム とぎしの家		
所在地	島根県雲南市大東町東阿用83-1		
自己評価作成日	平成25年12月27日	評価結果市町村受理日	平成26年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地		
訪問調査日	平成26年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の意思と人格を尊重した介護をします。 ・利用者様の生活歴をもとに培ってこられた知識・技術・経験を活かせるような畑や花壇の整備をしています。 ・笹巻きづくりやよりないなどの田舎の手作業を多く取り入れています。 ・山、川、田園に囲まれた環境の中で生活ができ、散歩も楽しむことが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりの生活歴や思いを把握してこれまでしていた事が継続できるように、畑や花壇を整備して一緒に作業したり、調理や食器洗いに参加してもらうことで生き生きとした生活となるよう工夫している。毎年行う事業所周辺の草取りや清掃時には家族にも参加してもらい、その後家族会を開き交流を図っている。地域の人の関係を大事にし行事やイベントを通して交流し、園児や小学生の来訪、依頼を受けて管理者が小学校の卒業生に認知症についての講演を行うなどしている。現在の取り組みを厳しく見つめ直し、課題を明確にしてサービス向上に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい ○ 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい ○ 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	普段は理念を忘れて介護していることが多い。自施設研修など、年に何度か振り返る機会はある。	研修の中で職員の都合で行動していないかなどを振り返り、事業所の意義を意識して日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	冬場は少ないが、地域のイベント参加や保育園、小学校、交流センター、ボランティアさんなど多岐にわたって交流している。	地域の行事に参加したり、事業所の夏祭りや納涼祭に多くの人に参加してもらっている。園児や小学生のボランティアクラブ、交流センター、ボランティアなどと日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校へサポート養成講座に行ったり、近隣自治会に呼びかけ事業所に来てもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で意見を頂きすみやかに実行している。地震対策等中には不十分な項目もある。	取り組みを伝える中で認知症についても知ってもらえ、避難訓練に協力を得ることができた。委員の意見から、行方不明時や災害時のマニュアルを作成したり業務の改善を職員で話し合うなど改善に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、意見や指導を受けている。	運営推進会議や地域ケア会議で意見をもらったり、必要時相談をして助言を得るなど、互いに協力してサービス向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県の権利擁護推進員養成研修に毎年参加し、自施設研修を行い、ベット柵を減らすなど身体拘束をしないよう努めている。	外部研修に参加して話し合い内容を再確認した。利用者との関わりや言葉を記録に留めて皆で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族の希望で使用しているベッド柵を減らした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の権利擁護推進員養成研修に毎年参加し、自施設研修を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無い訳ではないが、馴染みが薄く理解や活用が不十分と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を作成し説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の支払日に意見要望を聞き取り反映させている記録もとるようにしている。	利用料を持参してもらい家族と話す機会を作っている。利用者の声を家族が伝え、食べやすい食事形態にしたり、部屋に手すりをつけるなど改善した。隔年で行う一泊旅行には家族も参加し交流している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会やカンファレンス、また個人面接を通して意見提案を聞いている。反映できるものはすぐに対応している。出来ないものは数年かけて行っている。	管理者は日頃から意見や要望を聞くことに努め、気軽に相談にも応じるよう心掛けている。出された意見から環境整備を徹底したり、朝食作りを早番に変更するなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心が持てるよう、面接を通して個々の努力や実績の評価を行い、さらに働きやすい環境づくりに努めている。しかし十分ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人々に必要な研修を全員が受けれるよう機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の連絡会や雲南地域の連絡会、事業種別の部会研修などに参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の不安に対応するために、家族様に協力を依頼し、詳細な情報収集やら面会の機会を多くし、安心して暮らして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の機会を多くし、困りごとや要望を聞く機会を多くしたり、イベントへの参加を呼び掛けるなど交流をこまめに行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ速やかに対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ADLの高い利用者とはできていると思うが、重度者についてはできていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な場面で協力を依頼し、お願いできることは共に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に面会に来て頂いたり、外出の支援をお願いしたりしている。	一時帰宅や家族の協力を得て外出、外泊をしたり、これまでと同じように教会に出かけるなど支援している。日頃から親戚や知人の面会があり人との関係を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように本人の希望を踏まえて関係性を大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も来訪し易い雰囲気づくりに努めている。また新たな入所先へ面会に行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅に一時帰宅するなどの支援をしている。	話を聞くことを心がけ、「帰りたい」「買い物に行きたい」など利用者の思いに沿うよう対応している。外に出る人には納得するまで寄り添い支援している。	毎日ゆっくり利用者に関わる時間が持てるように工夫し、さらに思いを引き出し支援されることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	親しい方に面会に来て頂いたり、一緒に出掛けるなどの支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画書の短期目標の実現に努めているが十分ではない。意識付けが不足している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や関係者との話し合いはできていると思うが本人の意向が認知症もあり十分に反映されていない。	利用者、家族と話し合いをしながら介護計画を作成しているが、さらに要望に沿った支援に繋がれるよう計画用紙の改善に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項は細かく書いているが記入が簡素化している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の不満やストレス・ニーズに適時対応している。また、医療機関の受診時送迎や付き添いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容室の送迎や信仰への支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師と連携をとり、受診支援や往診をお願いしている。	かかりつけ医までは送迎して、診察には家族が付き添っている。隔週にかかりつけ医の往診があり、協力医の24時間体制もとられていて協力を得ながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態が良い時も悪い時も密に情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間は最少限になるよう相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から今後の意向を相談し状態が大きく変わる度に再度確認をしている。医療機関とも連携している。	入居時から意向を聞き、病状変化時にはその都度話し合いながら方針を共有し支援している。現在2名の看取り希望がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当を看護師に頼っており、看護師が不在の時は十分な対応ができていない。定期的な研修が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣自治会へ呼びかけ避難訓練に参加して頂いている。地震対策が不十分である。	夜間想定避難訓練に地域から2名の参加があり避難後の見守りを手伝ってもらった。消防から布団での移動時のポイントを聞いた。新たに風水害のマニュアルを作成した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ねできているがまだ意識の低い職員もいるので更なる意識改革必要だ。	一人ひとりを尊重した言葉掛けや対応に努めているが、さらに取り組みを徹底させたいと考えている。排泄時の声掛けは特に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	概ねできているが、職員の都合で判断することも多いので常に意識することが必要だ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが生活リズムが崩れている利用者もいるので職員のバランス感覚が必要だ。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の準備や買い物物の支援、理美容など利用者の好みや希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑へ野菜をとりに行ったり、準備の段階から一緒に行い、調理片づけまで一連の行為を支援できている。	野菜を収穫したり、食べたい物を聞いて一緒に買い物に行き、準備から参加する人や片づけを毎日する人もある。職員も席に着き会話をしながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	概ねできているが、水分補給を拒否される利用者に職員は困っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	様々な小道具を使い行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツから布パンツにしたり、尿器を使用したり、排泄パターンの把握や個人差の対応に努めている。	排泄パターンを把握して一人ひとりの様子を見ながら支援し、利用者に合わせてケアを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼ることが多く工夫が必要である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は利用者の希望を重視している。	利用者の希望に沿った入浴支援をしている。浴室は温度管理をして気持ち良く入浴できるような環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせているが、昼寝が長過ぎたり不規則な生活になる利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	詳しくは理解していないが、医師と副作用などについてその都度、相談連絡をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	概ねできている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人員に余裕がある時はできている。また家族の協力も得られていて、外出ができています。	天気の良い日は散歩に出かけたり、花作りや草取りなど自由にできるようにしている。希望を聞いて買い物に出かけたり、家族の協力を得て外出する人もある。計画的に外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる利用者はいないが、電話はされるので支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来る飾り付けをしたり、視線に配慮したテーブルの配置、ソファを置くなど落ち着ける場所づくりをしている。	季節の花や手作りの壁紙を飾ったり、居間にはこたつを置き生活感を取り入れている。清掃、環境整備に努め心地よく過ごせるよう心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士のテーブル配置をしている。独りになれる場所は少ない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテーブルやダンス、飾りなどを置き違和感のない空間づくりに努めている。	使い慣れた家具を置いて飾り付けをしたり、自分で家具や物品を動かす人は家族と相談して配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花づくりや草取りなど自由に出入りできるテラスなどを設置している。		